

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成15年
7月号

毎月23日発行
通巻395号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成15年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



飛んでいる野アザミの綿毛 菊地洋一さん撮影(文・5頁)

昭和63年8月26日 東光大祭法話

死後の世界は自分が作る (上)

法主 矢追 日聖

東光大祭の意味

暑い折でございますけれども、ようこそ、おいで下さいました。今日は、大倭では、年に一回の夏祭りでございます。毎年旧暦七月十五日に、東光大祭という名称のもとに、お祭りをやっております。

皆さんの顔を見ると、新しい方もみえておられますので、今日のお祭りの意味について少しだけお話ししておきたいと思えます。

私も毎年、とにかく一年経つと、だんだん頭の毛も白くなるし、これ以上は白うならん、抜けていく一方だね(笑)。来年の東光大祭の時は、皆さんにお目にかかってお祭り出来るやらかと、いつても終わった後には、それが実感なんです。今年もお陰さんで皆さんにお目にかかって、たとえわずかでもお話し出来るという事は、私としては、これが非常な喜びでございます。

思い出しますと、大倭教として宗教法人を設立いたしましたのが、終戦から間なしの昭和二十一年の七月(※十七日、設立登記)ございました。日本は法治国だから、宗教の仕事をしていく場合においても法人格を持つておると、何かと便利であるということで、宗教法人を作らなきゃいけないと、終戦の時から思っておったんです。

しかし、これから宗教として仕事をやっていくにしても、一体どういうような方向で、どんな方法で、そしてまたどここの場所を中心としてやっていったらいい

のか、例えば大倭神宮を中心とするのか、どこか別の所で教会でも作って、そこから始めるのか、私自身としましては全然見通しがつかなかったんです。その頃は、まだ私は百姓しておりまして。牛のケツ叩いての農耕です。田を植えたり、麦や野菜物を作ったりと、終戦のちよつと前の頃からやりました。

それも自分の意志でやっていたんじゃないんですね。東京におりました時に、神さんが「ヤマトへ帰って百姓せえ」とおっしゃるんです。昭和十九年の十二月に、いわゆる霊示というのか、そんなお示しがありました。

ちよつと十二月の始めぐらいやと思うんです。神さん拜んでおったところが、東京のような大都會の上に、黒い胴の飛行機が密集してやって来る、それからしばらく爆弾のような物を落としたり、焼夷弾を落とすべく、下にあつたものがみな燃え上がる。次にまた別の飛行機の集団が出てきて燃やしていく。そういうようなものが、私に見えてくるんですよ。

これは日本もえらいことになるねんなど思つて、自分とこのことも心配しておったんです。その時に「ヤマトへ帰って百姓せえ」たつたんです。いつまでするのかと言つたら、死ぬまでと言われたので、そのつもりになつて昭和十九年に帰つてきました。それから牛も飼うたり、農機具もみな集めて、素人百姓を始めました。

昭和二十年八月六日に、広島に訳の分からん爆弾が落とされたとき聞いた時は、えらいことになつたと思ひました。そして八月十五日には、天皇陛下の重大な放送があつた。敗戦の宣告ですわね。

私も頭が大分キリキリとなつてたと思うんや。一番先に、大倭神宮にお参りに行つて、神さんに伺つたところが、「お前の本職である宗教の仕事

はこれから始まるんや」と言われました。

これは若い時から神さんの方から言われておつたことではありますけれども、先程も申しましたように、自分としては何をどうしたらよいのか、さつぱり分からなかつた。神さんをどうやって祭つたらええのか、あるいは拝み屋みたいに祈祷して賽銭もらうようなこととしてやっていくのか。

けれども戦争で負けた社会を見ている時に、自分は宗教で仕事をしていく宿命なんだと、初めて自覚したんです。それは敗戦によつてなんです。当時、私はここから一キロほど南に行つた砂茶

屋という所に住まいして、昭和二十一年七月に宗教法人を設立して、ぼつぼつ宗教に志したんです。けど神さん、百姓をやめるとは言わはらへんから、百姓はせんなん。そこからここまで牛を追つて、いつも仕事に来ていたんです。

その年八月になつて、牛の餌にするのに、毎日土手で草を刈るんですが、その日もうつむいて一生懸命刈つてました。もう夕暮れで、お日さんが西の端に沈んでいく頃で急いでたんです。

そうしますと、ちよつと蝟の吸盤に吸われるみたいに、上から頭を吸い上げられた。赤ん坊が生まれる時、引つ張り出すのと同じ感じで上に引つ張り上げられる。こつちにしてみたら、仕事が忙しいからクソツツという気でまた刈る。けど、また引つ張り上げられる。それを四、五回繰り返しました。あんまりうるさいから、何かしらんと思つて、自分の体の力をばつと抜いた。そうしたら頭がピンとまつすぐに上がつて、左側に頭が向いてしまつた。春日山の方に……。

その時私はびっくりしました。これは自然現象ですよ。誰でも見える現象なんです。ちよつと虹と同じ色です。八の字のように光が四本出ていて、それより色の薄い光がもう四本と、放射状に八本

の光が春日山の所から出てきて、生駒山の上で広がっているんです。

普通であれば、自然現象やなあで済むんやけど、自分が頭を引つ張り上げられたから、何か自分に関係があるんやろうと思つたんです。何とも不思議やなあと思つてね、しばらく呆然と見ておりました。その時、頭の中でいろいろ考えてるんや。お日さんが西の山に入つていくんやから、光が西から出てくるんやつたら話は分かる。けれど逆の東から出てくるんやから、どう考えても合点がいへん。

そんなアホなことばかり考えていたら、光の出ている方から、満月がすーつと上つてきた。そら絶景ですよ。自然の姿ですから。私の想像で見えているのとは違ふんやからね。

今度は頭の中から声が聞こえてきた。いわゆる「黎明は訪れたり 東方の光 大法は立てり 大倭太加天腹」という言葉が、あちこちから聞こえてきた。妙なことになつたわいと思つて見ていたんです。その後で、誰かから、これは別の神さんやろね、「お前の宗教の仕事は、この場所を中心として、ここから始めよ」と言われた。

それで私は宗教の仕事を、いよいよ、ここから始めるんやなと思つたわけです。その記念日が、今日のお祭りなんです。それは昭和二十一年八月十二日で、ちよつと旧の七月十五日、満月の日だつたと記憶しています。

必然か偶然か知らんけれども、旧七月十五日は、仏教で言うたらお盆の日なんです。インド伝来のお盆の行事というのは、本来この日です。

私は仏教も何も関係ないのに、そんな日に、こんな現象が出て、「ここから宗教の仕事を始めよ」と言われる。何か理屈で分からんことがあるんです。それから毎年この日は、東から出て来た光や

から「東光祭」という名称を付けたわけです。最初の一年目の時には、夕方六時過ぎから七時までの間に、池の堤防の所（※現在、東方の碑がある所）で坐って、満月のお月さんが東の山から出てくる時間にお参りしたんです。昭和二十四年頃までは、そうやって外でやっていました。しかし、毎年行事として皆さんに参画してもらうんやから、方向を変えて、昼ご飯済んで出て来るのに二時ぐらいからやったら都合もええやると、人間中心に考えました。そんなんで今日までやってきたのが、このお祭りなんです。

祖霊祭の意味

今はもう、そういう現象は私自身には割合出てきません。この山に入った当時は、半分巻いってん（笑）。ところが四十歳ぐらいになつてくると、例えば声で聞こえてきたり、姿で見えてきたりということは、だんだん無くなってきました。今は殆ど無くなっています。もう長年経験してきているから、感じて分かりますねん。

一つの霊魂は、電波と同じような一つの霊波長があるんです。その霊波長がばつと私のところへ感じてくると、あ、これは何やな、彼やなど殆どすぐに想像できるんです。皆さん方でもよく相談にみえた時に、霊的障害で病気をしている人が中にはおります。そんな時に私は、これはどうやとか、こうやとか簡単に物語りしてます。ピンピンと感じてきて分かるんです。

それが、昔は姿で見えたり、声で聞こえたり、精神分裂みたいな形で、いろんなことを教えてくれたわけなんです。

しかし、私は大体それを卒業したんやろと思えますねん。そういう現象を見せなくても分かるよ

うになつてるんやからというのでね。ちよつと私も進歩したと思います（笑）。

そうなつてくると大体先は短いと思います。しかしこれは分かりません。分からんけれども、自分の人間心では、たとえ一日でも健康で長生きしたい。私はすごい欲を持ってますねん。長生きしたい、長生きしたいという。定まっているんですよ。定まっているのは分かかっておつたかて、心とこのうのは、また別なんです。

皆さんがこうやって来てくれる、相談にもみえる、その皆のことを思つたら簡単に死ねませんが。これはもう、人間の欲心かもしれん。

やつぱり、霊の世界に行くよりも、生きている方がよろしいよ。霊界の生活を今日まで大分見えますけども、霊界ぐらい窮屈なところはありませんよ。仏教で、極楽に行つたら蓮の台に座ると言うけど、まあ一べん、蓮の台に座らされてみい、あんな退屈なことあらへんで（笑）。そやから、行きとやないねん、あんな所。やつぱり、どこへでも歩いて行けるような所におらんと。好きなこともしてね。霊界でも、そう出来るんやつたらええけどもな。

生きている時から死ぬまでの自分の一生の間に、いろんなことをやってきてますやろ。人のために善根功德を積む人もあるやろし、喧嘩して人を泣かしている人もおるわな。またお金お金で、人の情なしに儲けることばつかり考えている人もある。生きていく時のいろいろな心の状態がそのまま、死んだ時に自分の世界になります。それが霊の世界なんです。

金儲けしたい金儲けしたいと思つて大分財産もこしらえて、今度は、あの金もつたいたい、誰かが使つてしまふとか、そんなこと思つて死んだら、それが自分の世界になつてきます。頭の上か

ら何トンというくらいな重さでお金が落ちてきて痛がつているような、そんな憂き目をみている人が、霊界を見たらたくさんあるねん。

それは何も地獄に落ちるのどちがう。自分の生きておつた時の心が、自分を責めるんです。霊界いうたらそんなんやから、うるさい所ですよ。それは、逃げることも出来へん。

生きている時には心安うもの言うてたかて、死んだらめつたに話できへん。自分は生きてた時にあの人と心安かつたから、お互い死んでしまつたし一回遊びに行こうかと思つても、それは絶対に出来へんのや。

何故かと言うとね、今はテレビがあるから、その理屈で話したら分かりやすいと思う。チャンネルをNHKに合わしたらNHKが出るわな。そこまで電波が来てるんやね。今度はチャンネルをポツと変えて、朝日放送なら朝日放送を出す。これはみんな経験してるでしょ。NHKと朝日放送でそれぞれ電波の波長が違つてるんやわね。

人間が百人おつたとすると、百人それぞれ的心中に、その肉体を生かしている一つの電気みたいなものがある。その生命体を霊魂と言うねん。霊魂からは電波みたいなものが、皆出ているんです。それは一人、一人ポルトが違う。心が皆違つてるから、全部波長が違うんです。

死んだ後の世界は、肉体が無くなつた霊魂の世界やから、お互い皆が波長で動いています。あの人と会いたいと思つても、そこまで電波が来ていたかて、波長が合つてなかつたら、絶対に会われへん。だから霊界というところは孤独なんです。一人なんです。

その時に、血のつながつておる縁のある子孫が、自分の先祖さんの名前を呼んでお供え物や水を上げるとかすることによって、死んだ世界の人達が

生きている人と交流できるんです。

靈魂になつてしまつたら、皆波長が違うから靈魂同士との交流はなかなか出来ません。ところが、霊体と肉体を持つている人とは交流が出来ますね。靈魂は寂しいから、誰か一緒になつて自分を助けてほしい。

さっきの話みたいに、お金のことばかり思つていたら、霊界では何トンもの鉄のようなお金で押さえつけられるような苦しみを受けている。それを助けてもらおうと思つたら、子孫に頼むしかないねん。なんぼ友達おつたかてあきませんんで。阿弥陀さんをなんぼ拜んだかて、めつた来はらへん。お前が悪いやないかと言われるだけや。だから、生きて自分の子孫に頼らないかんのや。その時に、生きている子孫が、仏壇にでもお供えをして、ご先祖さんにどうぞと言つたら、それだけ助からはんねん。そこへ出てきて話しの一つも出来るんや。皆には聞こえんだけで、向こうはもの言うてはるねん(笑)。

そんな交流が、数多くないと、先祖さんというのは苦しんでる場合が多いんですよ。

お盆の行事

それは蓮の台に乗るぐらいの心の善い人であつたら、苦しんでらはへん。まあ、蓮の台に乗らんけどね。そんなのは一つの物語やから。

死んだら、自分で作つた世界で、自分が生きておるんです。例えば、人のために善根功徳を積んできて善いことばかりで悪い方が少なかったら、よく「良い所へ行く」と言うけれど、これも説明の仕方だね、行くんやないねん。自分で、良い世界を作るんです。

仏教を信仰して人やつたら、たいい般若心

経を唱えてはるやろ。般若心経に何が書いてあるかと言つたらね、お前ら皆アホやないかと書いてあるねん(笑)。

何でそんなに欲ばつかり持つてるねん。結局、形の世界の物は全部、空や。何も無いんや。そやから欲を持つたり、それで人のことを何とかかんとか言つて喧嘩したりするよな、そういうよなことは全部もうやめてしまえ。心の中はほんまに何も無い空の世界になれ。

そんなことが書いてあるのが般若心経。あいつの顔を見たら腹が立つとか、そんなこと思つてみい、めつたに良い所には行かれへんと説いてはるねん。

けれども、空の世界はなかなかむずかしい。もし自分の死後が、空のような世界であつたら、自分の思い通りのことが出来ます。例えばご馳走が食べたいと思つたら、ぱつと目の前に出てくる。これは私が若い時、霊界を見ていたら、ほんまにポツと出てくるのを見とつたから言うんです。

ところが仏教で言う地獄に落ちている人やつたら、現界の子孫が供えて上げるとして、それを食べようと思つても食べられへんねん。

それがちようどお盆の謂れというので、目連尊者の話があるわな。餓鬼道に落ちているお母さんを助けようと思つて食べ物も上げたかて、パーツと食べ物から火が出て食べられへんねん。目連尊者はお釈迦さんに、どうしたら食べることが出来るのか聞いたというんですね。私はインドのことを知らんし、これは言い伝えやで。

インドにも七月十五日というのがあつたんやろな。この日に、出家さんが托鉢の行をするんや。皆、功徳やと言つてお供えするわけや。ところが目連尊者のお母さんは、お坊さんが托鉢に回つて来ても、惜しがつてお米の一粒も上げたことがな

いらしい。七月十五日のその日に、何千人かしらんけど托鉢のお坊さんに一人残らず全部に供養したら、お母さんは助かると、お釈迦さんに言われたわけやな。それで目連尊者は驚いて、お供養をしたというのがお盆の始まりという話しや。

お盆というのは、孟蘭盆の略です。インドの言葉で、両足首を紐でくつて逆さまにぶらさげられる苦しみという意味らしい。目連尊者のお母さんは、それほど苦しんでたということやねん。

仏教が日本に伝わつてお盆の行事になつたんやな。しかし日本でも、ご先祖さんを崇拜し大事にするというのは、元々からの習慣なんです。日本人というのは、仏教も神道も関係あらへん、他所から来たものであろうとええもんやつたらガブツと食うてしまうよなところがあるから、先祖さんが救われるんやつたら何でもええやないかというので、日本の先祖崇拜と一つになつて、お盆の行事も盛大になつてきたんやろと思ひます。

関西は八月の十二、十三か十五日がお盆や。東京に行つたら新暦の七月十五日にやつてるし、また旧暦七月十五日にやつてる地方もあります。日本はお盆が三つある。先祖さんも忙しいと思うけど(笑)、これは一つの行事としてやつておるんです。

(続く)

いげれずみ

今年の旧暦七月十五日、東光大祭は八月十二日になります。昭和二十一年と同じやなあと話題になっていました。そういうことはどれくらいかの確率であるのか、インターネットで調べた人があつて、昭和二十一年の旧暦七月十五日は、アレ?八月十一日だと言います。この一日のずれは、法主様の記憶違いだつたのでしょうか。昭和二十二年発行の『大倭』という新聞でも法主様は、八月十二日と書いておられるのですが……。

(春)

「笑う富士山フェスティバル」を開催するに当たって

風ぐるま * * * * *

宮崎県日南市 相馬 敬子

2003年7月25日〜8月25日、富士山のふもとで、(東海地震が過ぎるまで浜岡原発を止めておこう)をテーマに、「笑う富士山フェスティバル」(※富士山の裾野で行われる様々なイベント、集い。編集部注)を開催することになり、昨年10月に宮崎県から静岡県(田方郡函南町)に移り住んでいます。そのきっかけが『おおやまと』にあると言えば、編集者の方から「？」と首をかしげられるでしょうが、まあ聞いてください。

連れ合いの菊地洋一の写真展を通して大倭あじさい邑にご縁をいただいた7年になります。菊地と知り合うまでの私は、「肉体のない心の世界」を説く書物があつたり、そういうものを宗教家以外の人が研究しておられることを知りませんでした。ただお姑さんが家の一大事には必ず霊能力のある知り合いの女性にお伺いを立てておりましたので、霊的存在があることには疑いを持たず、日常的にもお祭りはしております。

しかし宗教というとお経や祝詞だのと、素人の私にはさっぱり理解不能な表現で近づきにくく思っていたのですが、おかげさまで『おおやまと』の「法主さまに聞く」というような文面から届いてくるメッセージはとても解り易く腑に落ち、疑問に思うことがすくと解け、迷わないで行動に移れることがたびたびあり大変助かっています。

それまで身体で感じていることを表現できないもどかしさや歯がゆさがありました。理解者を得たよう通信が送られてくるのがとても楽しみです。特に、このフェスティバルとの関係においては

平成14年4月号に始まる、野本三吉氏による「ア二ミズムの世界―沖縄・龍神」で紹介された比嘉ハツさんと、紙面を通しての出会いが始まるころの世界を強く感じています。

10月号で、洞窟の中の話として紹介されている、「誰が知るか、母の産みの苦しみを、誰が知るか、生んだわが子を育てられぬ歯がゆさを、ホトを焼かれた母は、国を追われて死出の旅、流れ流れて南の国へ……」というくだりを読んだ時、胸を締め付けられると同時に涙が溢れてきて、ハツお母さんの苦しみ「これは私のことだ」と思いました。3人の子を授かりながら、個性を生かしたその子らしく光り輝くように育ててやれなかつたくやしさを味わいながら、なぜそうなつたのかを知りたくて、長男が二十歳を迎えてから生き直しを決意せざるをえなかつた時のことを思い出していました。

むさぼるようになって、「地上母神、地上に立ちて、今こそ治めん戦の世をば、今こそたださん我利我利亡者、長かつたぞえ、我が苦しみ」と読み終えた時、溢れる涙を拭きもせず、「そうか、この役なのか……」と妙に納得している自分がいました。なるほど、愛を伝えたいと思いがらも、龍や鬼と呼ばれて、夫や子からうとまれている母親を、慈悲心のある母親(観音さま)になれるように精進することが今世の私の課題なのか。

そんな優しく強く賢いお母さんのリーダーが、この地球上を真の平和に導きつけを創れるかもしれないと真剣に思い、またこの頃の私は本当

に無知なまま子を産んでしまった後悔の念が大きくなりましたので、天に向かいこの役のオーディションを受けることを宣言しようと決めました。

それからというもの、法主さまの言われるように、毎日の生活の中で修養するための相手役を受けていくのも辛くなつてしまった若者や、登校拒否の子どもを持つ登校拒否先生の家族との出会いなどがあつたのです。みんなが健やかな笑顔に戻れるようにお手伝いをしている内に、周りの人が元気になつていくにつれ、私の心の深い所に刺さつていた罪悪感の刺が外れたように感じる日がきました。そしてその勢いで身体の底から清水が湧きあがるようなしあわせを味合うことができるようになりました。

「世界平和」などという大きな目的はあつても、そのためには自分がかみず心の中にある「腹のたつ原因や恐怖を退治し、どうなれば幸せかを探り、手にいれること」、その上で今持っているものを分かち合うことこそが平和への近道だと私は思っていました。そこへ、自分が存在する喜びで行う行為により、傷ついた人たちに笑顔が戻るように全身全霊を使つて伝えていくことの喜びを知ることができました。しおれて元気のなかつた花が元気を取り戻して咲いたようで嬉しくてたまりません。比嘉ハツさんも言われているように、今世紀は、世の中の汚く暗い部分に、多くの人が自分のこととして気づき、変革をもたらすことのできる世紀に来ていると思えます。私もまた新しい時代の胎動を強く感じています。

「笑う富士山フェスティバル」では、参加者が自然界のリズムを思い出し、いのちの種が芽吹き、「此花咲くや」と内側から叫ぶような生きかたをするので、地球という星が愛に満ちて輝きたす



▼和歌山市 津名道代

のだと思えます。焚き火を囲みながら、富士山のエネルギーをいっぱいいただき、笑顔の花の種を飛ばせるような「しあわせの見本市」になれば嬉しいと思っています。最後にになりましたが、みなさまの温かいご協力に感謝しております。ぜひ、「にじのむら」に遊びにおいでください。

浜岡原発、巨大地震対策虹のネットワーク

TEL/FAX 055-979-3423

(菊地・相馬)

東海地震がすぎるまで浜岡原発とめておこう！

ホームページ <http://amanakuni.net/niji>

郵便口座 00510-7-47664

浜岡原発虹ネット

『おおやまと』三月号に「青い目をしたお人形」と「日本人形」の交流の記事が載っていましたね。亡母の古いアルバムに、そのような写真があったのを思い出しました。撮影年月の記入はないのですが、母が奈

第276回大倭会文化行事

秋の一泊旅行のご案内

～壇ノ浦に平氏滅亡の跡を訪ねる～

日時 平成15年10月26日(日)～27日(月)

行き先 下関方面

お泊り 下関海峡を望むホテル

定員 50名程度

費用 3万5千円程度

※遠方のため新幹線とバス利用。今から予定に入れておいて下さい。

世話人 湯浅芳郎(電話0742-48-3389)

良市のキリスト教系の愛染幼稚園に勤めたのは昭和2年4月からで、昭和4年9月に転勤していませんから、その頃のものと思われる。お人形交流は、大正デモクラシー後の東の間の平和な時期のできごとだったのでしよう。ともかく日本でも、このように歓迎されたようです。このあと日本もご承知のような軍国主義になってゆくのですが……。(4月6日)

▼新潟県佐渡郡 大滝哲也

鶴見俊輔さんの記事は、ことのほか面白かったです。法王様の法話もそうですが、鶴見さんのようなものの見方、考え方が、私達に伝わるといふことは、とても有難いことだと思います。時代の流れの中の現象を胸のつかえがスツととれるような、的を得た表現で言っておおらかさ、ただ甘やが急速に失いつつある「おおらかさ」、ただ甘やかすだけでない「やさしさ」を感じました。(4月25日)

東光大祭と祖霊祭のご案内

日時 平成十五年八月十二日(火曜日)

午後一時二十分より

東方の碑 拝礼所にて

午後二時より

大倭大本宮拝殿にて東光大祭

奥津斎庭にて祖霊祭が行われます

この日は、昭和二十一年八月十二日の東方瑞祥の時の法主様をしのんで、夕方六時ごろから東方の碑前にて、東の山に現れる満月を待ちたいと思います。時間のある方は、共に大倭紫陽花色の草創の時に思いをさせてみませんか。

また有志が直会も用意してくれます。会費二千円。どなたも是非ご参加下さい。

弥栄おどろき祭

日時 平成十五年八月二十三日(土曜日)

午後七時半より

場所 大倭紫陽花色 西斎庭にて

今年も子供達の夏休みの思い出づくりに遊びにおいで下さい。

尚、この日は午後二時から大倭大本宮の月次祭があります。

寸 莎

第55回

橋 本 幸 一 さん



やさしい心

今回の「寸莎」では、「ながそね介護保険相談センター」で介護支援専門員（ケアマネージャー）の仕事をしている橋本幸一さんに登場してもらおう。

筆者もケアマネージャーとして、短期間だが橋本さんと一緒に仕事をすることがあり、利用者であるお年寄りに対する彼の丁寧で誠実な対応には感心させられることが多かった。彼のこれまでの歩みについて一度ゆっくりと話しを聞かせてもらいたいと思っていた。

橋本さんが生れた昭和四十七年というのは、その年の出来事である沖縄復帰、日中国交正常化、連合赤軍あさま山荘事件と並べてみると分るように、時代の大きな曲り角の年だった。その年の九月五日に、石川県

出身の父親と鹿児島県出身の母親の間の長男として大阪で誕生した。

現在の頑丈そのものの彼からは想像しにくいのだが、小学校六年生頃まではハウスタスト等を誘因とする小児喘息やアトピーの持病があり、親類の家へ行く時には、「幸一が来るから掃除をしておかなくて」と迎えてくれたという。橋本さんのお年寄りに対する優しさの原因の一つには、こうした中で育まれた繊細さがあるのかも知れない。

五歳の時に、大気汚染を避ける理由もあって、大阪の石切から奈良の高の原に家族で引越して来た。「体を動かすのは好きで、小学校でミニバスケットボールをはじめ、高校一年までバスケットを続けた」というし、「だれとでも友達になった」というから、非常に活発な子供であるという側面もあったようである。

京都の平安高校を卒業してから一

浪後の大学受験は、「老人ホームに勤めていた母親の影響もあって、福祉系の大学に挑戦したが、失敗」、浪人中から続けていた父親の水道配管関係の仕事でアルバイトで手伝ったりしていた。「男臭い現場だったが、目上の人とのつき合い方等を学べてよかった」とふり返る。

その頃、母親が、「社会福祉の専門学校へ行くなら、月謝を出してあげる」と言ってくれたので、関西国際社会福祉専門学校（吉住学園）を受験して、二十歳で入学した。

橋本さんが本気で社会福祉に興味を抱きはじめたのは、一年目の夏休みに特別養護老人ホームに実習に行つてからのことだった。「お年寄りとかかわるのが面白く感じるようになり、実習仲間と準備した寸劇がとても好評だったり、担当の指導員が、『第一段階の実習とは思えない』と評価してくれたりして」、何かが動きはじめた。専門学校の同級生の中では年長の方だったので、「兄貴分」として仲間とつき合う学校生活も楽しかったようである。

二段階目の実習は、大倭安宿苑の長曾根寮と須加宮寮に派遣されたのだが、それが縁になって、平成七年四月から長曾根寮で仕事をはじめることになった。「こちらで働いてみないかと声をかけられて、家族会議

で話し合つて決めた」という真剣な選択だったようだ。

長曾根寮での二年目からは、デイサービス部門に配属され、日中やってくる在宅のお年寄り達のリクリエーションに力を入れて、「体操のお兄さん」と呼ばれた。

その後、入所部門のフロアーリーダーやショートステイの責任者を務めたりしてから、介護保険の介護支援専門員の試験に合格して、昨年の四月からは「ながそね介護保険相談センター」のケアマネージャーとして仕事を始めた。「在宅のお年寄りの方達のお世話をさせてもらうのは、とてもやりがいがあるが、介護保険制度を個々の利用者の方達にきちんと適用して調整していくのは大変な面もある」と仕事のやりがいと苦勞について語ってくれた。

これからの仕事の上での目標は、「もつと勉強してスキルアップ（実力向上）を図っていきたい」と意欲的である。

平成十一年十一月に一緒になった和左夫人とは職場結婚である。二人の間に生れた和奏ちゃん（わなな）は八カ月になったばかりで、可愛いけど仕方がない。「休みの時は和奏の世話をし、ヨメさんを少しゆっくりさせてあげたい」とよき夫でもある。

（聞き手 岸田哲）

あじつ日記

6月13日 午後6時より大倭会館で奈良県職員から菅原園の建替え工事のための説明会が大倭町住民に対し行われました。

6月15日 大倭神宮月次祭。

6月18日 京田辺市の鈴木啓三郎さんが本紙購読料を編集部まで届けてくれました！購読のきっかけは介護の仕事を立ち上げ中で施設見学にきたこととのことですが、何か変わった雰囲気宗教ですとのこと。

6月21日 夜、交流の家でF.I.W.Cの定例委員会。今夏も光明園・愛生園の夏祭り参加、韓国ワークキャンプとスケジュール一杯です。無事、韓国留学を終えた委員長の劉成道君も参加しました。

6月22日 大倭会文化行事。まず中之島公園内の大阪市立東洋陶磁美術館に参加者29名(内小人4名)が三々五々と集合、小雨のためドアマンがホール内で待つことを勧められました(「静かに」と、ちよっとむつかしいご注意も受けましたが)。世界的に有名な「安宅コレクション」が寄贈されたものとのことで、黄金よりも高いという名品を鑑賞。公園内にはいわゆるホームレスの青テントがビッシリ、炊き出しらしい長い行列が目につきました。

そこから少し歩いて林修三さんの「友朋塾」現代中国語センターへ。土佐堀川沿い(菅原道真さんが大宰府に流される時、船に乗せられたのがこの辺り)と林さんから説明がある)のビル3階で、一方に川やバラ園、もう一方に改築中の北浜証券所を眺めながら昼食と歓談のあと、少し中国語の勉強もしました。また少し歩いて水上バスに乗船(写真)、1時間ほどの遊覧を堪能して解散となりました。



6月23日 大倭大本宮月次祭。前々日数え90歳の誕生日だった青山日元さんが紫陽花色発祥を記念してお話しされました。
7月2日 東京で活動していた李章根さんが紫陽花色の近く(二応、大倭町内)に引越してきたとのことに来邑されました。
7月3日 午後5時半から教務本庁で、本号7頁の「寸紗」の

インタビューが行われました。
7月6日 大倭神宮月次祭。夜、大倭会館で紫陽花色の各事業の報告連絡会(邑倭の会)が開かれました。

7月7日 昇ちゃんの71回目の誕生日。文化行事の帰りに車に乗せてもらったことから縁ができて青山家庭の元子かあさんと美子都ちゃんが付き合っており、岸野春子さんと4人で、誕生日のサーブのあるレストランでお食事しました。子供好きの昇ちゃん、最高に満足。
7月10日 毎月2回、夜、教務本庁で本紙編集会議があります。この日は、これまでは東京在住の編集部員だった李章根さんが顔を出してくれました。

大倭安宿宛では
7月7日 菅原園建替え整備がいよいよ始まりました。まず長曾根寮と須加宮寮の間にあるあすか広場に仮設建物を建てる工事をします。
紫陽花色にえられる皆さんは何かとご注意下さい。

7月8日 夜間想定で合同防災避難訓練実施。
(菅原園)
7月8日 七夕行事。手作りの梅ジュース、梅サワー、梅酒、梅ゼリーと梅づくしの趣向で遊びました。
(須加宮寮)
6月26日 希望外出で宝塚歌劇に行きました。

(長曾根寮)
6月26日 家族会と協力して、イブミヤ学園前店への買物会を行いました。好天にも恵まれ、アイスクリームを食べたり何よりの気分転換でした。
(八重垣園)

6月18日 俳句の会。「太りたるそら豆のさやポンと折る」「薔薇ひらく悲喜こもごもの米寿かな」「睡蓮の葉の広がりや花一つ」

あんない

* 大倭会主催第四一七回禊会
8月3日(日) 午前9時より大倭大本宮境内の清掃神事として行います。(第一日曜日です)
なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。

* 月次祭(大倭神宮)
8月6日(水) 大倭神宮にて、午後2時より。

* 東光大祭及び祖霊祭
8月12日(火) 旧暦7月15日です。詳しくは6頁をご覧ください。

* 大倭教立教開宣祭及び大倭神宮月次祭
8月15日(金) 大倭神宮にて、午後2時より。

* 月次祭(大本宮)
8月23日(土) 午後2時より大本宮拝殿にて。

* 弥栄おどり
8月23日(土) 午後7時30分より。6頁をご覧ください。

編集後記

▼考えられないような少年事件が多発している。それらを見て青年育成のためにならんかの訓練が必要だと言った方がいた。その二ユアンスに異和感を感じ思わず反発した。原因を個人の中に押し込めその個人を抹殺し自己を問わぬ姿勢からは何も生まれてこない。町のトイレに入ると勝手に水が流れてくる、そんな時代の中でどんどん自らとの関係を結ぶものを見失ってしまっていると感じるのは考え過ぎだろうか。自らと他の間は空洞化し、自分の内と外の間も空洞化してくる中で、今これらを取り結んでいくものとは何だろうか。奈母太加天腹、顕幽不二、思いやりをもつという法主様の言葉を噛みしめたい。(章)

お願いとよびかけ

法主様ご帰幽満10年を記念して大倭大本宮で計画しておられる法主様奥津城の整備造成に、何卒各人の分に応じご協力をお願いします。

大倭会会長 中西 正和

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639
口座名 大本宮特別整備基金
中西正和
2. 郵便振替口座 00900-6-241836
口座名 大倭奉賛会